

県内復興・経済日誌（2019年5月）

1日

《新天皇陛下即位》

天皇陛下は4月30日に退位され、憲法と皇室典範特例法に基づき、皇太子徳仁^{なるひと}さまが午前0時、皇位を継承し、新しい天皇に即位された。1989年1月8日に始まった「平成」は幕を閉じ、新元号「令和」の時代が始まった。

4日

《飯舘村で村内初の漆生産開始》

飯舘村で、村の若者3人が試験的な漆生産事業「いいたて漆生産プロジェクト（仮称）」に着手した。東京電力福島第一原発事故後に手つかずとなっている同村の広大な土地を利活用することが狙いの一つで、放射性物質の影響がないかなどを見極めつつ「までの村産」漆の出荷を目指す。

7日

《県産米の県外取扱店6割増》

県産米を取り扱っている県外の商業施設などの店舗数は2019年3月時点で1,212店に上り、前年同期より約6割増加したことが県のまとめで分かった。東京電力福島第一原発事故により、県産米の取り扱いをやめる店舗が全国で相次いだ。県職員らによる「ふくしま^{うりこめたい}売米隊」の首都圏を中心としたPRなどが奏功した。

《大熊町、新庁舎での業務スタート》

大熊町は、4月に避難指示が解除された大川原地区に新設した役場庁舎で業務を開始した。同町内に本庁舎機能が戻るのは約8年2カ月ぶりで、渡辺町長は職員に「復興の最前線基地として町を発展させていってほしい」と訓示した。

8日

《花見山今春の来訪者数23.4万人》

花見山（福島市）における春のシーズン期（3月16日～5月6日）の来訪者数は23万4千人で前年比1.3倍になったと、木幡市長が記者会見で発表した。同市は、市内の花の観光名所と連携し、各地を周遊する人の流れをつくる「福島市花観光振興計画」を策定し、観光のシンボルとして「花」を活用した観光振興に取り組み、花の名所8カ所を対象とした2020年の入込数45万人を目指す。

9日

《「飛露喜」IWCで金メダル》

世界最大級のワインの品評会「インターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）2019」のSAKE（日本酒）部門のメダル受賞銘柄が発表され、純米大吟醸酒の部で広木酒造本店（会津坂下町）の「飛露喜 純米大吟醸」が金メダルに輝いた。2年連続4度目の金メダル受賞に関係者は「世界的に権威のあるコンテストで高い評価を受けてうれしい」と喜びの声を上げた。

《郡山市にフランスの自動車部品製造工場開設》

フランスの自動車部品製造大手フォルシアは、郡山市に自動車の排気ガス浄化システムの製造工場を開設すると発表した。同社が国内に排気システム関連の製造拠点を設けるのは初めてとなる。来年8月の運用開始を予定しており、地元を中心に50人を雇用する見通し。

15日

《あんぽ柿、今冬タイへ震災後初輸出》

県と全農県本部などは今冬、県北地方特産のあんぽ柿を東日本大震災と東京電力福島第一原

発事故の発生後、初めて輸出する。福島県県産品輸出戦略会議で方針を示した。第一弾として、県産品の輸入実績が伸びているタイ向けに数百kgを空輸する見通しで、海外の販路拡大を目指す。

16日

《GWの県内観光施設入込客数、35.1万人》

日本銀行福島支店は、10連休となったゴールデンウィーク期間（4月27日～5月6日）の県内主要観光10施設の入込客数を発表した。10日間で計35万1千人と前年比9万5千人増加した。今年は前半から客足が伸び、特に天候に恵まれた5月2日、3日の両日はいずれも4万5千人台となった。

17日

《全国新酒鑑評会、本県金賞数7年連続日本一》

酒類総合研究所（広島県）は、2018酒造年度（2018年7月～2019年6月）の日本酒の出来栄を競う全国新酒鑑評会の審査結果を発表した。本県は、特に優れていると評価された金賞酒に22銘柄が選ばれた。金賞銘柄数は都道府県別で最多となり、7年連続の日本一に輝いた。本県が持つ連続最多記録を伸ばし、技術力、品質の高さを改めて示した。

20日

《東邦銀行と福島銀行、ATMを相互開放》

東邦銀行と福島銀行は、両行が運営する現金自動預払機（ATM）の相互開放を9月2日から実施し、平日日中の出金時の手数料を無料にすると発表した。利用者の利便性を高めるとともに、ATM運営にかかる費用を減らし、両行の業務の効率化や収益力の向上につなげる。

22日

《県内市町村の2019年度当初予算総額、5年ぶり増加》

県は、県内59市町村の2019年度普通会計当初予算の概要を発表した。総額は前年度比508億8,466万2千円増の1兆1,135億6,180万2千円で、

5年ぶりに増加した。県は「帰還困難区域など、復旧・復興が遅れていた地域で事業が本格化したため」と分析している。

24日

《土湯温泉に観光交流の2施設開業》

土湯温泉（福島市）に、廃業旅館を活用し整備したまちおこしセンター「湯楽座」と、観光交流センター「湯愛舞台」が開業した。式典が行われ、関係者が地域の新たな観光資源の誕生を喜んだ。観光情報発信や地域交流の機能を持つ2施設によって、復興へ歩む温泉街の装いを新たにし、にぎわい創出や観光誘客に弾みをつける。

《訪日宿泊者数（2月）、本県の伸び率全国最高》

2月に県内を訪れた外国人の延べ宿泊者数は、前年同月比約3倍の23,790人で、1月に続いて伸び率が全国1位となった。県議会政調会で県が示した。県は「本県の雪質が周知され、海外からのスキー客などが増加したため」と分析している。

29日

《県内のモニタリングポスト、設置継続》

原子力規制委員会は、空間放射線量を測定する県内の放射線監視装置（モニタリングポスト）について、住民説明会で反対意見が相次いだことを理由に方針を見直し、設置の継続を決めた。同委員会は昨年3月、県内にあるモニタリングポスト約3,000台のうち、避難指示が出された12市町村以外にある約2,400台を2020年度末までに順次撤去するとしていた。

31日

《フィリピン、福島県産水産物禁輸を解除》

安倍首相は、フィリピン政府が県産の水産物について、輸入停止措置の解除を決定したことを明らかにした。同国のドゥテルテ大統領と官邸で会談後、共同記者発表で公表した。外務省によると、フィリピンは現在、県産のヤマメ、イカナゴ、ウグイ、アユの4品目の輸入を停止している。